

デンソー山岳部 2010 年春山合宿報告書

山城 南アルプス 甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳

日程 2010 年 4/29 日～5/02 日（予備日 1 日）

メンバー CL：山田 明 SL・装備：吉田 明和 食料・会計：天野 広 渉外：町田 修
 気象：亀山 誠 医務：津田 廣一 記録：竹内 幹雄



4 月 29 日（木）曇りのち雨のち雪

6：05 仙流壮駐車場（バス） 6：40 歌宿 9：00 北沢長衛小屋 11：30 出発 12：25 仙水小屋
 13：10 仙水峠 13：45 仙水小屋 14：30 北沢長衛小屋

前夜に車で刈谷を出発。途中、道の駅むら長谷で仮眠をして、翌朝、早起きして、仙流壮駐車場に向かう。ここから 10 分ほどで到着、駐車場は数台の車が駐車している程度だ。車を置いて出発準備をする。ここから始発のバスに乗り歌宿まで林道を走る。バスの中は 16 名ほどだがザックを座席の横に置いているので程よく席が埋まった感じである。



やがて歌宿に到着、停車場から目の前に鋸岳が見える。それを横目にザックを担いで曇り空の中を歩き出す。しばらくすると雨がポツポツと降り出してきた。途中でカッパを着て雨の中を進む。標高が上がり雨からアラレ、雪になってきた。それでもテント場に着く頃には止んでしまった。歌宿から 2 時間ほどでテント場に到着、あたりを見渡し雪の積もってない所にテントを設営、中に入る。V8 テ



ントは広くて快適だ。しばらくして再び雪が降り始め雷まで鳴り出した。大矢さんから送られた天気予報では気圧の谷が通過するので一時雨である。その予報通り 11 時過ぎには降り止んだので山田 CL の号令で仙水峠まで偵察を兼ねて出発をする。仙水小屋を通過して仙水峠に向かうルートだ。吉田さんと天野さんがトップを交替で務める。新雪でトレースが見え難くなった登山道をテンポ良く歩いていく。川沿いの道を進み川に架けられた橋を 3 回渡りやがて仙水小屋に到着、休憩を取る。すぐそばに飲料水と書かれた水が勢い良く出ており一口飲むとこれが美味しい。そして出発、樹林の中を進んでいくと徐々に視界が開けてきた。仙水小屋から 40 分ほどで仙水峠に到着である。目の前に甲斐駒ヶ岳が見える。凜々しい姿である。しばらく景色を眺めていたが冷たい風が吹いていて肌寒い、偵察はここまでとしてテント場に戻ることにした。テント場に到着するとテントの数が増えていて登山者で賑やかになっていた。日差しを浴びながら持参したビールで乾杯、くつろいでいたが日が暮れ始めると寒くなってきたのでテントの中へ移動、夕食の準備に入り、雑談、そして食事を済ませ 19:30 睡眠に入る。(竹内 記)



4 月 30 日 (金) 快晴

3:30 起床 5:00 テント場(長衛小屋)出発 5:40 仙水小屋 6:15 仙水峠 8:00 駒津峰 11:20 甲斐駒ヶ岳山頂 13:20 駒津峰 14:15 仙水峠 14:45 仙水小屋 15:30 テント場着



5:00、7 人全員が元気にテント場を出発する。多少の肌寒さが心地よい。6:15、仙水峠に到着すると、摩利支天が圧倒的な大きさでたたずんでいた。さて、この峠から延々と上りが続く。行けども行けども上り坂が続き、これはツライ。一步一步、息を弾ませながら進む。ふらふらになりながらも、2 時間弱でやっと駒津峰に到着する。ここでアイゼンをつけながらふと見上げると、甲斐駒ヶ岳山頂部がどっしりと構えている。もう少しだ、と気合を入れて出発する。途中、急な上り下りがあり、

雪山初心者を含む我々はザイルを使い慎重に進んでいく。時間はかかったが、11:20 ついに山頂に到着した。山頂からは快晴の中、北岳、仙丈ヶ岳...と雄大な景色が広がっていた。この雄大な景色を満喫した後、帰路も急な勾配ではザイルを使い慎重に進む。駒津峰、仙水峠を快調に通過し、仙水小屋へ。仙水小屋では飲料水用の水が流れており、一日の疲れが吹き飛ばすほど美味しく、一同のどを潤した。15:40、テント場に到着し、無事の到着を祝い、祝杯を挙げた。(吉田 記)



5 月 1 日 (土) 快晴

起床 (3:30) 北沢峠 (テン場) 出発 (5:00) 2 合目休憩 (5:40~50) 3 合目 (6:15) 緩斜面でアイゼン装着 (6:25~35) 大滝ノ頭 (5 合目) 過ぎ休憩 (7:20~30) 小仙丈ヶ岳休憩 (8:15~8:30) 平坦部にて 休憩 (9:20~25) 仙丈ヶ岳山頂 (9:40~10:00) 大滝ノ頭 (5 合目) 休憩 (11:05~15) 2 合目手前でアイゼン外す (11:45~55) 北沢峠 (テン場) 着 (12:35) 就寝 (19:30)



3 時半起床、もやし入りラーメンで体を温める。体調の悪い山田・天野の 2 人を残し 5 人での挑戦となった。若手の吉田君は 2 人前を平らげフル充電。元気よくテントの外へ出て出発準備。空は薄曇りだが、その向こうに晴れ間が覗く。今日も快晴の期待が高まる。5 時ジャストに出発。歩き出すにつれ、薄雲は取れ青空が広がる。登り口からは、いきなりの急登だ。しかも凍った雪道。滑らない様に慎重に歩く。少し、汗ばんだ頃に 2 合目

に達し 1 本。全員、体調は良さそうだ。地図をみると、これからさらに傾斜が増す。暑くなると読んで上の 1 枚を脱ぐ。呼吸も次第に荒くなり気をつけても滑って後ずさりする。35 年前に初めて登った時も、樹



林帯の急傾斜に悪戦苦闘した記憶が甦る。“苦しくて、苦しくて・・・完全にバテテ座り込んだ山” 夏道と雪道の違いはあっても、この苦しさが仙丈の登りと思いつつ我慢比べが続く。3 合目を過ぎ、少し緩斜面となった所でアイゼンを装着。途端に今までとは比較にならない凍結した急傾斜となった。タイミングよくアイゼンを装着したものだ！アイゼンの爪を生かしてガンガン登る。凍結雪面にアイゼンの爪が気持ちよく利いて、後ずさりはなくなった。吉田君・亀さんの 2 人はハイペースで登って行く。“おいおい、早すぎるぞ～”と思いつつ、私は自分のペースを守ってついて行く。後ろの竹内さん

が苦しそうだ。大滝ノ頭を過ぎ、広い所で一本。一息入れて、“さぁ～小仙丈” と思い、近づくとつれてますます傾斜がきつくなる。“帰りにここを降るの？” と思うと不安になる。前に行く二人に、ハ～ハ～と何とかついて行く。やっとの思いで登りきった所が小仙丈、1 本。素晴らしい景色だ。北岳の左横に富

士山が頭を出す。塩見やハヶ岳、鳳凰・・・疲れを忘れて 360 度の大パノラマを楽しむ。小仙丈を出発するや、ナイフリッジの降り。“ここを降るの？今日はザイルを使わないの？どちらへ転んでも下まで行っちゃうな～” と躊躇していると、竹内さんが追いついてしまった。“南無・・・” と意を決し、足跡を一步、一步とピッケルを突き刺しては忠実に辿る。待っている二人に追いついてやれやれ。再びナイフリッジに、しかもかなりの強風が吹いている。風が弱まるのを待っては一気に進む。やっとの事で頂上へ。“ヤッター！” 皆と握手し登頂を喜びあ



う。昨日の甲斐駒や北岳が雄大に見える。記念写真を撮って、頂上で最高の展望を楽しんでは、下山開始。「ゆっくりでいいから・・・腐った雪をアイゼンから払って・・・」とラストの町田さんからの注意が飛ぶ。慎重に降りていくが、登頂時に感じた恐怖感を不思議と感じない。登ったという自信？それとも慣れ？ゆっくりと二人の跡を追って行く。小仙丈まで降りてきて 1 本かな？ と思っているとトップは休む事なく通過。急に腹が空きだした。一気に大滝ノ頭まで降りてやっとな本。空きっ腹に行動食を入れて復活。2 合目近く迄、降りてアイゼンを外した。凍った箇所滑っては尻もちの連続。12 時半頃、予定よりも早くテンプルへ到着。天候に恵まれ、春の雪山を堪能しての一日であった。(津田 記)



5 月 2 日 (日) 快晴

3:30 起床 5:00 北沢峠発 6:30 歌宿バス停着 7:35 発
8:10 仙流荘バス停着 8:40 発 9:55 昼神温泉着
11:35 発 13:05 部室着

最終 4 日目も快晴となり、テントを畳むのもラクちんである。撤収時間も短く、林道歩きも軽やかに 1 時間早くバス停に到着した。歌宿バス停からは鋸岳が真正面に鎮座し、「またこいよ」と我々を誘う。仙流荘からの出発が早い時間のため、昼神温泉「湯ったりーな」で汗を流す事とした。(天野 記)



所見 (総括)

< 計画・行動 > (CL 山田)

メンバーは若手、中堅、ベテランで構成され、合宿の目的である『若手の育成』を実行出来る良い機会となった。行動については全行程好天に恵まれ、安全登山で計画通り実施することが出来た。

コースは岩稜と雪のミックスである甲斐駒ヶ岳、比較的なだらかで積雪の多い仙丈ヶ岳と対照的な山であったので、岩稜帯のアイゼン歩行、ザイルを用いた急斜面の登下降、急斜面のトラバース、ナイフリッジ歩行と、雪山技術全般のトレーニングを行う事が出来た。

若手部員には今回の経験を今後の登山に活かしていただき、中堅部員には登山技術向上のきっかけになれば良いと考えます>

< 装備 > (担当 吉田)

行動中、ザイルは使用したものの、持参したスコップ、ゾンデ棒は使用することなく、安全な山行ができた。

一方、テントは7人に対して、ダンロップ製8人を用いたので広く快適であった。

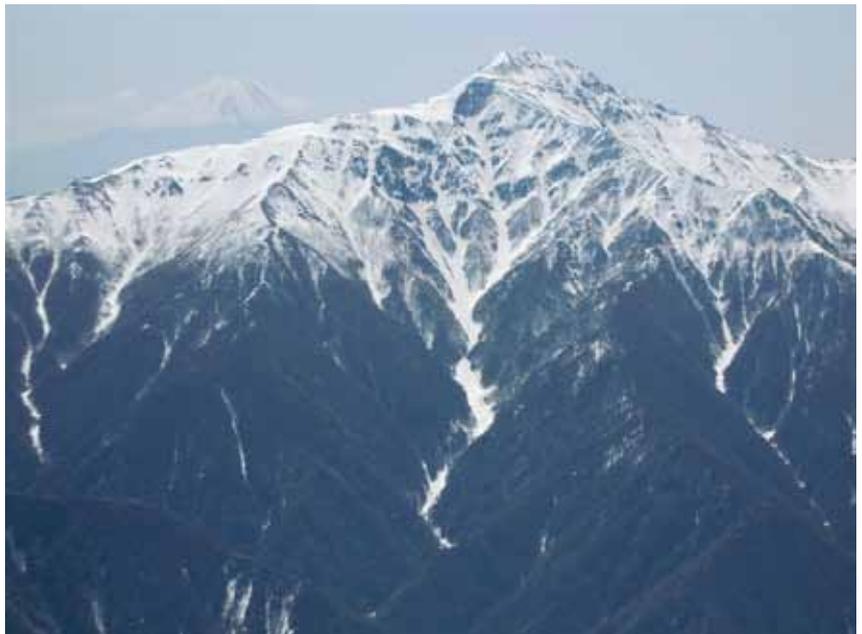
< 食糧 > (担当 天野)

・ご飯は4合/7人でちょうど良かった。炊け具合も好評だった。(浸水時間・火加減・加圧がポイント)
・朝食のおかゆは、一人一袋必要。(量+分配の手間)また塩気が少ないため、梅干・ふりかけ等の工夫が必要。

・乾燥味噌汁は具沢山が良い。また一人一袋あった方が便利。(量+分配の手間)

< 感想 >

BC(ベースキャンプ)から駒と仙丈の ATTACK は、程好い距離と時間とグレードでメンバーを充分満足させてくれた。私の気分を良くしたのは美しい富士山が稜線上から終始見えていたことである。地形と気象から期待はしていた。孤高で端正な山容は余分な飾りのない自然美の究極だ。さらにうれしかったのはピラミッド型の北岳が、これまた他を圧倒して大きく鎮座している姿を見れたこと。過去積雪期に何度かこの辺りに足を運んだが、今回のようなインパクトはなかった。日本の one・two をパノラマにクラブのメンバーと歩けたのはハッピーな合宿だった。行動についてのスキルや体力についてはCLの総括で語られると思う。今後の山行に活かせばよい。



春山は冬山にも増して好きである。締まった雪稜にアイゼンを利かして春風に吹かれながら歩けば言うことなし。仙丈ヶ岳はそんな山だった。同行のメンバーに感謝である。(町田 記)

・初めての春合宿に参加し、甲斐駒ヶ岳に登頂できとても嬉しい。駒津峰から山頂を見たときは、登れても降りられないと思った。先輩・仲間へ感謝!

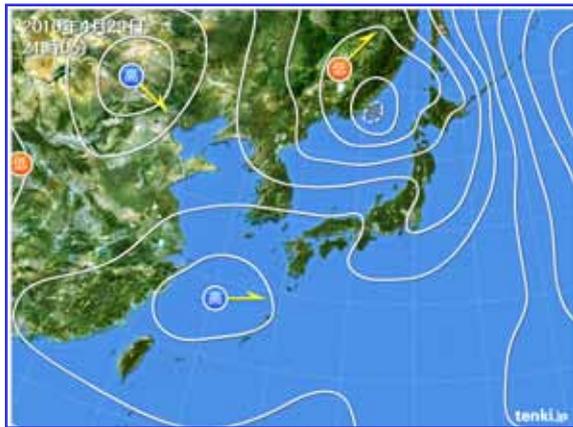
・甲斐駒ヶ岳でスタミナを使い切り、仙丈ヶ岳をキャンセルした。夏山合宿に備え、体力増強を図りたい。

・ピッケル・アイゼンの使い方、ザイルの結び方等、勉強・経験を重ねて次回に備えたい。

(天野 記)

気象報告 (担当 亀山)

< 4 / 29(木) 曇り-雨-みぞれ-アラレ-雪-晴れ >



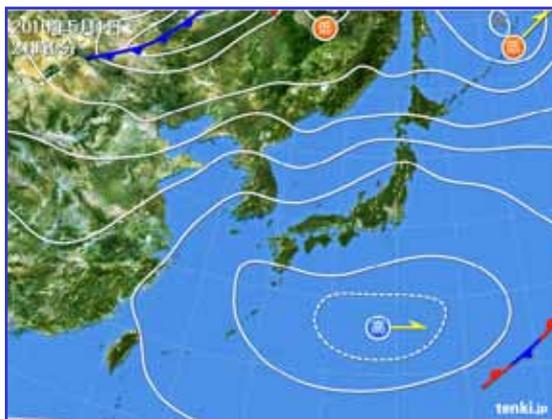
29 日は寒冷前線が通過する。朝から昼前にかけて一時的に雨が降る。午後は高気圧に覆われ、各地で晴れ間が戻る。

< 4 / 30(金) 晴れ、夜中あられ・雪 >



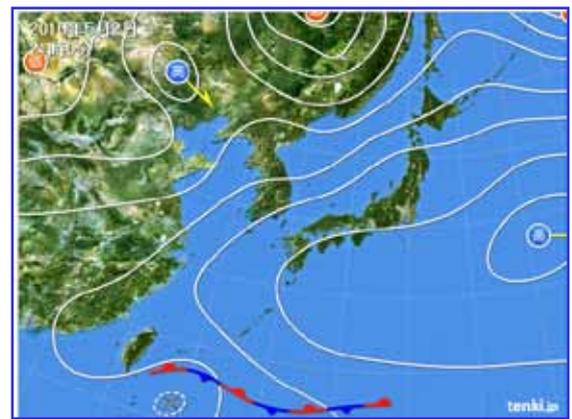
30 日は東シナ海に中心を持つ高気圧に覆われ、日中は各地とも晴れる。夜は、岐阜県を中心に、にわか雨の所がある。

< 5 / 1(土) 曇り-晴れ >



1 日は南海上に中心を持つ高気圧に覆われる。日中は各地とも穏やかに晴れて、行楽日和。湿度が低く、快適な陽気。

< 5 / 2(日) 晴れ >



2 日は、南の海上に中心を持つ高気圧に覆われる。安定した青空が広がり、絶好の行楽日和。日中は快適な陽気になる。

会計報告 (担当 天野)

収入

会費 (9,300×7名) 65,100

その他 ワインの差し入れ (金子さん)

支出

バス代 14,000

テント場 10,500

ビール 7,000

食糧 15,400

車 (亀山号・竹内号) 18,200

支出合計 65,100

差し入れありがとうございました。